

2024年12月22日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第67巻第39号(通算3421号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう 週報

教会標語

小さくされている人を
大切に^{たいせつ}する^{きょうかい}教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人が
みな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)

クリスマス(降誕日)礼拝

しゃかいふくしほうじんにほん ふくしかい ほうじんせつりつ しゅうねんきねんれいはい
(社会福祉法人日本コイノニア福祉会 法人設立50周年記念礼拝)

れいはい
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
しちょう
もご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう
前奏(黙禱)

ちよさくけんしやうめつ
AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば
招きの詞

しへん
詩編

へん せつ
85編 9節

さんびか
賛美歌

ばん しゅ ま のぞ
21-242番「主を待ち望むアドヴェント」(©JASRAC)

てんとう
クランツ点灯のことば

りたじー さんびか
交禱と賛美歌 21-267番「ああベツレヘムよ」(©著作権消滅)

さんびか
賛美歌

しんせいさんびか ばん にほん れんめい
『新生讚美歌』180番「イエスがここに」(©日本バプテスト連盟)

せいしよ
聖書

ふくいんしよ
ルカによる福音書

しやう せつ
2章 1-20節

メッセージ

ちい なか かみやど
「小さき中に神宿る」

うしだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

さんびか
賛美歌

だいにへん ばん ほし
『第二編』219番「さやかに星はきらめき」(©讚美歌編集委員会)

ユーカーリスト
聖餐

うしだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

きやうどう いの へいわ
共同のお祈りと、平和のあいさつ

さんびか ばん
賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

しゅ いの
主の祈り

ささげもの
献げ物(*)

はけん
派遣

しゅ いま い
「主は今、生きておられる」(©JASRAC)

しゅくふく
祝福

うしだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

こうそう
後奏

ばん きやうだんさんびかいいんかい
アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

ほうこく
報告

ページ さんしやう
(8頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

*「献げ物(献金)」は、受付にある献金箱にお献げください。

招きの詞 詩編 85 編 9 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

主なる神が何を語られるかを聞こう。

主は平和を語られる

その民に、忠実な人たちに。

a 彼らが愚かさに戻らないように。

(脚注 a : 別訳「また、心を主に向ける者たちに」)



クランツ点灯のことば

かみさま、イエス様のお誕生をお祝いするクリスマスの時をありがとうございます。
イエス様は暗闇の中に灯った光です。イエス様がなされたように、私たちも
この光を分かち合い、灯し合う歩みができますように。イエス様がこの世に来ら
れたことを、私たちが心から感謝してお祝いすることができますように。

リタジー
交禱と賛美歌「クリスマスのリタジー」

司式者

今も、この世界では戦争が続けられていて、多くの人々が心と身体に痛みを抱えながら、このクリスマスの時を迎えています。身体的な苦しみ、精神的な苦しみ、経済的・社会的な苦しみなど、様々な苦しみや痛みを抱えておられる方々があります。それらすべての方々のために祈ります。

暗闇の中を歩いた人たちは、偉大なる光を見ました。深い影の地に生きる人たちの上に、光が照らされました。彼らをつないでいた軛くびきと、その人たちに課せられていた重荷を、神様は打ち砕かれました。

みんな

憐れみ深い神様。私たちはそれぞれに苦しい思いと記憶を抱えつつ、今を生きています。そんな私たちと仲間たちのために、このクリスマスに私たちの祈りをお聞きください。今日を生きるための力と、明日を迎えるための勇気、そして過去を覚えるための平安を、どうぞお与えください。喜びと悲しみ、死と命、そして絶望と希望、確かなる約束を、私たちと共に分かち合ってください。イエス・キリストと共にあって祈ります。アーメン。

賛美歌『讚美歌 21』267 番 (1 節)「ああベツレヘムよ」

司式者

ここに5本のろうそくが灯されたアドベント・クランツがあります。イエス・キリストの降誕を待ち望みつつ灯したこのろうそくの一つ一つには意味があります。一つ目のろうそくは、先に天に召された私たちの大切な人たちを覚えるためです。しばらく静かに、彼らの名前、声、そしてこの季節に私たちと彼らを結びつける思い出を思い出しましょう。そして、私たちの内にある彼らの命を感謝しつつ、神様の前に彼らを心に抱きましょう。(しばらく黙祷)

みんな

命の源^{みなもと}である神様、私たちはそれぞれに大切な人たちを、この一年もあなたの御許^{みもと}に送りました。そして、その人たちがあなたの御許^{みもと}で安らいでいることを信じています。そして彼らがあなたからの「贈り物」として、私たちに与えられたことも感謝いたします。私たちは信じています。皆があなたからの「永遠の命」を生き、彼らとも一緒に生きているのだということ。この真理が今も、そしてこれからも、私たち皆の支えとなりますように。いつも共にいてくださるあなたが、私たちの真^{ふるさと}の故郷を、何度でも思い起こさせてください。また周囲の人々のうちに、出来事のうちに、また自然の美しさのうちに、あなたからの喜びを見出させてくださいますように。すべての悲しみをご存知である神様、悲しみと痛み^{うめ}に呻くこの心を、どうか慰めてくださいますように。アーメン

賛美歌『讚美歌21』267番(2節)「マリアを母とし」

司式者

二つ目のろうそくは、喪失の痛みに対するともし火です。自分や家族の健康の喪失、家族や友人との関係性の喪失、仕事とお金の喪失、ストレスによってもたらされた日々の生活からの喜びの喪失……。これら様々な痛みを集めて、神様に差し出します。神様、私たちに、心からの平安を与えてください。

みんな

神様、私たちは、あなたに信頼したいと願っています。しかし、すぐに心の中が恐れと不安でいっぱいになってしまいます。私たちが経験することすべてにおいて、あなたがいつも共にいてくださることを覚えさせてください。生かされている

命の不思議を感謝し、あなたの守りと導きの約束をハッキリと心に刻んでくださいますように。アーメン

賛美歌『讚美歌 21』 267 番 (3 節) 「人はみな眠り」

司式者

三つ目のろうそくは、人生における方向性や指針を失っている人たちのためです。出エジプトを導かれた神様は、古代イスラエルの民を、^{あれの}荒野を通して、新しい地へと導かれました。今、私たちはこれから進むべき方向性を切実に求めています。今、自分がどこにいて、これからどこに向かうべきなのかをお示してください。神様、あなたは力強くおっしゃいます。「恐れてはならない。私があなただの前に行く」と。

みんな

私たちの深みにおられる神様。どうか私たちを導き、私たちが正しい道の上にいることを教えてください。私たちの命を、あなたの御心^{みこころ}に沿ってお用いくださいますように。私たちが失ったものをすべて、あなたの御許^{みもと}に置いてください。アーメン

賛美歌『讚美歌 21』 267 番 (4 節) 「ああベツレヘムの」

司式者

四つ目のろうそくは、希望のしるしです。クリスマスの物語が、私たちに指し示している希望のしるしです。私たちの命を分かち合ってくださいる神様が、すべての涙^{ぬぐ}が拭われる時と場所を約束してくださっていることを覚えます。

みんな

神様、どうか私たちの沈んだ心を引き上げてください。道を見失っている時、どうか導いてください。日々の生活の中で、あなたから頂いている愛を見出せるようにしてください。そしてその愛を信頼できるように助けてください。それによって私たちもまた、隣の人を大切にすることができますように。すべての命を大切にされるイエス・キリストと共にあって祈ります。アーメン。

司式者

五つ目のろうそく、アドベント・クランツの中心にあるろうそくは、キリストのろうそくです。クリスマスの夜、社会の中からのけ者にされ、粗末な家畜小屋でお生まれになったイエス・キリストは、この暗い世界の中に灯った小さな光でした。小さくとも確かな光が、暗闇の中には灯っています。

みんな

暗闇の中に輝いておられる神様。私たちは、この世界と私たち自身の中に、暗闇があることを知っています。クリスマスに家畜小屋の中でお生まれになったあなたは、社会の片隅^{かたすみ}を歩み、十字架へと追いやられつつ、光と慰め、平安と喜びを、この世界にもたらしてくださいました。私たちもまた幼子^{おきなご}イエス様の光によって、この心がすべて闇に閉ざされてしまわないように、私たちの中にも確かな光を灯して下さい。そして私たちがこの世界で再び輝き、隣にいる人たちとこの小さな火を分かち合い、灯火を増やして行くことができるようにしてください。アーメン

司式者

このクリスマスの季節に、私たちに必要なすべての良いものが与えられるように、神様に祈り求めましょう。多くの痛み、様々な喪失、大きな不安と向き合っている私たちに、神様どうか応えてください。私たちの家族や仲間が、互いに寄り添い、助け、支え続けてくれますように。先に天に召された私たちの大切な人たちが、また私たちの生活の中のあらゆる喪失が、すべて、あなたの復活の約束によって全きものへと完成されますように。遠い昔、クリスマスの夜、羊飼いたちに、御使いによって告げられたように、世界の隅々にまで、あなたからの平安がありますように。全てを創られた愛と恵みの神様、このクリスマスに痛みや苦しみ、悲しみの中にあるすべての人たちに、あなたからの力を豊かに注いでくださいますように。アーメン。

・《出典》2-5頁：「クリスマスのリタジー」（以下を参照して改変）

Heather Hill 2012. “Blue Christmas Service: When Christmas Hurts”

(<https://youngclergywomen.org/blue-christmas-service-when-christmas-hurts/>)

中村佐知 2016. “（翻訳）ブルークリスマスのリタジー” 「ミルトスの木かげで」

(<http://rhythmsofgrace.blog.jp/archives/14789699.html>)



聖書 ルカによる福音書 2 章 1-20 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

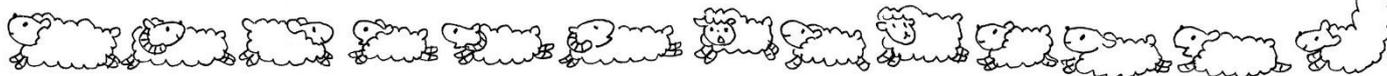
¹ その頃、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令ちよくれいが出た。² これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録であった。³ 人々は皆、登録するために、それぞれ自分の町へ旅立った。⁴ ヨセフもダビデの家系であり、またその血筋であったので、ガリラヤの町ナザレからユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。⁵ 身重になっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。⁶ ところが、彼らがそこにいるうちに、MARIA は月が満ちて、⁷ 初子の男子を産み、産着うぶぎにくるんで飼葉桶に寝かせた。^a 宿屋には彼らの泊まる所がなかったからである。

⁸ さて、その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。⁹ すると、主の天使が現れ、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。¹⁰ 天使は言った。「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。¹¹ 今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。¹² あなたがたは、産着にくるまって飼葉桶に寝ている乳飲み子を見つける。これがあなたがたへのしるしである。」¹³ すると、突然、天の大軍が現れ、この天使と共に神を賛美して言った。

¹⁴ 「いと高き所には栄光、神にあれ／地には平和、^b 御心みこころに適う人にあれ。」

¹⁵ 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行って、主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。¹⁶ そして急いで行って、MARIA とヨセフ、また飼葉桶に寝ている乳飲み子を探し当てた。¹⁷ その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使から告げられたことを人々に知らせた。¹⁸ 聞いた者は皆、羊飼いたちの ^c 話を不思議に思った。 ¹⁹ しかし、MARIA はこれらのことをすべて心に留めて、思い巡らしていた。²⁰ 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の告げたとおりだったので、神を崇め、^{あが} 賛美しながら帰って行った。

(脚注 a : 別訳「客間」、b : 直訳「神に喜ばれる人にあれ」、
c : 別訳「話に驚いた」)



《先週のメッセージより》2024年12月15日 第3アドヴェント礼拝

「聖霊によって、神によって」より

牛田匡牧師

聖書 マタイによる福音書 1章 18-23節

ルカによる福音書 1章 26-38節

今回は2つの福音書から、イエス様の母となった乙女マリアへの「受胎告知」のお話でした。妊娠と出産というものは、母体にとって命懸けの大仕事ですが、それが通常の結婚による妊娠・出産ではなかったとしたら、その苦労はどれほどでしょうか。2つの福音書から分かるヨセフとマリアのお話の要点は、①イエスはマリアの子、②マリアはヨセフと婚約中に妊娠した、③ヨセフはイエスの生物学的な父ではない、の3つです。婚約中にもかかわらず、ヨセフ以外の子を妊娠してしまったマリアは、たちまち村中から「汚れた罪人」として冷ややかな目で見られ、後ろ指を指される辛い境遇に陥りました。当時の女性たちの結婚年齢は、14歳頃と考えられていますから、年端もいかないマリアは「どうしてこんなことになったのか」「これからどうしたらよいだろう」と悩み、途方に暮れていたことでしょう。そのような絶望としか思えないような中で、天使が現れて「その子は聖霊によるのである」と告げました。歴史的には、恐らく未婚の少女マリアは、性暴力の被害者となるなど、予期せぬ望まない妊娠をしたのだらうと考えられます。律法違反の妊娠をしたマリアと結婚したヨセフは、共に「汚れた罪人」として村の中でも差別され、除け者にされていきました。それにもかかわらず、そこにこそ「神が共におられる（インマヌエル）」、その妊娠は神が働いたが故のものであり、聖霊によるものに他ならないと聖書は伝えています。「全てに見放され、絶望しかないような状況の中でも、神は決して見放さない。いや、全てから見放された絶望の状況の中にこそ、神は今ここに共におられる。今、私に働いて下さっている。私は今、神によって生かされている」……。そのようにマリアとヨセフは感じ、力付けられたのではないかと思います。

クリスマスに神が人となった。それも罪人の子としてお生まれになった。そのことが意味しているのは、そのような小さくされている人たちの現実の中にこそ、神が共におられるということであり、またそのような人間の手を介して神は働かれるということなのだと思います。神様から命を与えられて、今日も生かされている私たちは、この命をどこで、誰と共に、どのように用いていくのか、生かされて行くのか。その問いを胸にしながら、私たちはクリスマスまでの1週間を、歩み出して参ります。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 12月15日 第3アドヴェント礼拝

礼拝出席 大人4名 献金 大人4,000円 中継視聴者数11回 感謝

◎次週 2024年12月29日(日) 歳末礼拝(降誕節第1主日礼拝)

招きの詞 イザヤ書 60章 1-2節

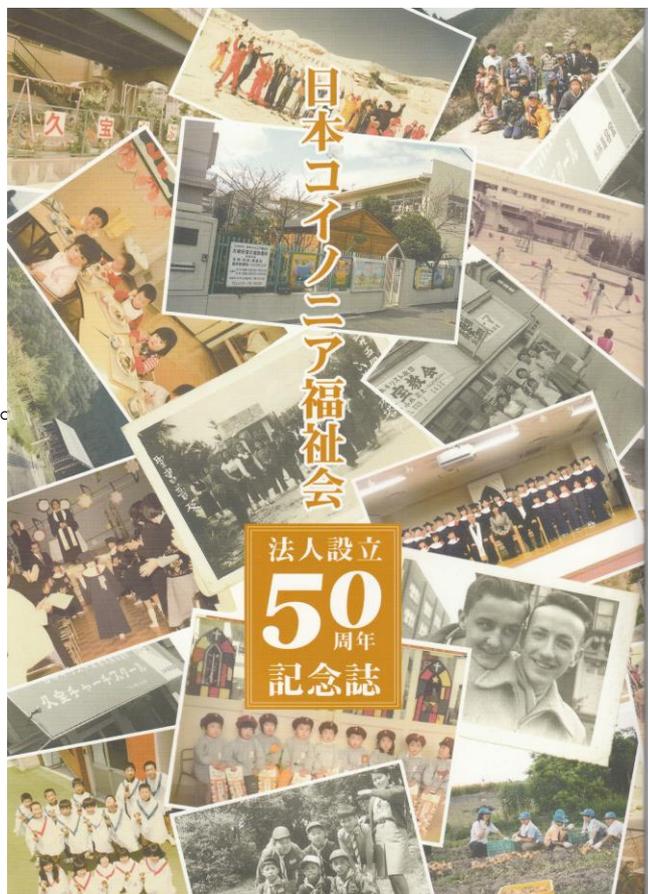
聖書 イザヤ書43:1、ヨハネの手紙一4:16、ローマの信徒への手紙14:8、
マタイによる福音書28:20、フィリピの信徒への手紙4:4

賛美歌 54-410番(©P.D.)、21-469番(©JASRAC)、こ改99番(©出版局)

礼拝の中で、12月の誕生者祝福式を行います。

◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・12月の釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」は、休会です。釜ヶ崎・いこい食堂では毎年12月のクリスマスには、諸教会や諸団体、賛同者の方々から集められたお弁当を、お配りしています。今年も日本コイノニア福祉会の3施設(旭丘まぶね保育園、特別養護老人ホーム大阪好意の庭、特別養護老人ホーム第二好意の庭)から、65食のお弁当を作って、クリスマス当日の25日にお届けする予定です。
- ・今年も「クリスマス献金」を集めています。献金先は「関西学院大学神学部後援会」「日本基督教団部落解放センター」「一般社団法人神戸国際支縁機構」「生活困窮者支援(釜ヶ崎への毎月のおにぎり支援基金、他)」「関西労働者伝道委員会」「アハリー・アラブ病院を支援する会」「ナルド献金(大阪教区・互助特別献金)」の7団体です。各団体の詳細や活動内容については、それぞれの団体のチラシや、ウェブサイトなどを、ご参照ください。
- ・今年2024年に、社会福祉法人の設立から50周年を迎えた「日本コイノニア福祉会」の「法人設立50周年記念誌」が出来上がりました。1959年に久宝伝道所が開設されてから、無認可のベビーセンター活動を10年ほど行ってから、社会福祉法人格を取得し、その後、多様な事業を手掛けて来た略史の他、現在の各事業所からの報告も掲載されています。無料でお分けいたしますので、ご希望の方はどうぞお申し出ください。



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
12/29	牛田匡牧師	歳末礼拝・誕生者祝福式
2025年 1/5	牛田匡牧師	新年礼拝・ユウカリスト 教会を考える会
1/12	水谷憲牧師	
1/19	牛田匡牧師	

《先々週のメッセージより》2024年12月8日 第2アドヴェント礼拝

「驚くべき不信仰」より

水谷憲牧師

聖書 マタイによる福音書 13章 53-58節

イエス・キリストが故郷であるナザレに戻ってきた時の話。「人々は驚いて言った。『この人は、このような知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろう。この人は大工の息子ではないか。母親はマリアといい…』」。「この人は」とは実際は「こいつは」といったニュアンスだったという。さらに「大工の息子」。父親の名前などどうでも良い、たかが大工の息子、というような言い方。親の仕事が何で母親が誰、兄弟は誰、など全く余計なお世話なのに。

故郷の彼らは、イエスに関する昔の記憶が邪魔をして、彼の現在の姿について素直に評価できないのだ。それは、関係が近いほど難しいのかもしれない。「身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。『あの男は気が変になっている』と言われたからである（マルコ 3：21）」という話もある。身内でもイエスを正しく見れないのだ。私たちも、誰かを「～の息子」「～の仕事の人」「信仰歴〇〇年」「年齢が〇〇才」といった、こちらの一方的なレッテルに頼って「ああ、あの人ね」なんて、その人を知った気になってはいないか。

いつまでも上辺だけの関係で、新しくその人と出会っていかなければ、本当に深い関係を作っていくことは出来ない。イエスに付き従っていた弟子たちでさえ、イエスが死んで復活するまで、彼を本当に理解する事は出来なかった。反対に、イエスに一度も生で出会ったことのないパウロの方が、彼をよく理解していたのかも知れない。私たちも、自分はこの人のことをこんなに知っているんだというへんな思い込みやレッテルに捕らわれず、絶えず新しい一面と出会いながら、豊かな人間関係を作っていきたい。

イエスは「人々が不信仰だったので、そこではあまり奇跡をなさらなかった」。マルコ福音書では「そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、その他は何も奇跡を行うことがおできにならなかった。そして、人々の不信仰に驚かれた」。不信仰とは、人の話を聞かず、疑い深い姿勢。そこには神の国の福音も、不思議な業による神の力の証も、決して届かない。私たちも、イエスに不信仰さを驚かれないように、もしくは信仰を固く守って逆に驚いていただけるようになりたいものだ。もうすぐクリスマス。「ああ知っているわ」「いつものあれね」などと自分の中で固まったイメージを取り除き、感動や喜びを新たにできるように備えていきたい。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube

